



ふれせた家庭教育学級講座2017

プレーパークと一緒に、 子どもの育ちと遊びについて、 考えませんか？



子どもの体力低下や、キレやすい子の増加
が叫ばれて久しい昨今。でも、対症療法のように
運動をさせたり、道徳を教えても、根本原因を
置き去りにしたままでは、子どもの未来に暗い影を
落としたままです。

子どもたちが元気で、のびのび、自由に遊ぶ。
そんな場所を地域住民が作り出しているプレーパーク。
遊びが持つ力を知れば、子どもの問題解決の糸口が
必ずつかめます。ぜひ、世田谷区PTAの皆さんと共に、
考えさせてください。

お問い合わせ・お申し込み
(特非) プレーパークせたがや事務局
TEL・FAX：03-3414-4175
mail：otoiawase@playpark.jp

遊びを学ぶ。それは子どもの育つ力を守ること。

子どもにとって、「遊び」とは何でしょう？ひと言で言うと、それは「自分で自分を育てる」行為です。

大人から、教えられたり嫌られたりするのとは別に、子どもは遊びを通して、自分のペースで、自分のやり方で、自分を育てています。世田谷の保護者たちが中心となって、子どもの自由な遊び場をつくってきたNPO法人プレーパークせたがやでは、子どもの遊びや、育ちに関する様々な講演やワークショップをつくっています。ぜひ、私たちと一緒に、子どもが自らを育てる「遊び」について考えませんか？

昨年度開催の講演から聞こえた、参加者の声

6月30日開催/S小学校 子どもの脳力満開セミナー ～小学生の間に体験させたいこと～

普段子どもに対して良かれと思っていることが逆効果である、と感じました。子どもが遊育する環境をもっと考えたいです。

私自身「子どもが普通に遊ぶ」という事に、何か見えない制限やルールがある気がして、子どもが無心になって遊べることはどういう事かいつも考えていました。でも、今日のお話を聞いて、私の違和感はこういうことだったと、腑に落ちました。

いずれの話も興味深く、胸打たれる内容でした。子どもとの関係を見直したいと思いました。

情動がさまざまな神経系に通じ、遊ぶ中で心から体の健康につながっていく過程を、ものすごく分かりやすくお話しして下さいました。ありがとうございました。

夏休みを前に今日のお話を聞かせていただいて本当によかったです。子供のやりたい、体験してみたい気持ちを共に大切にしながらこれから過ごしていきたいと思いました。

9月27日開催/K小学校 気軽に話そう子どもたちのこと ～あなたもわたしも悩める大人～

遊びは子どもの宝物、教育は大人からの贈り物、改めて気づきました。

夢中になって、熱中して遊ぶことが子どもの成長に大切だと改めて実感しました。親はつい子どもに教えたくなくなっちゃうけれど、自分で考えること、選ぶことを大事にして欲しいと思いました。

子どもを連れての参加となりましたが、『大声を出しちゃってもイイよ』と数名の方が声をかけてくださり、相手もしてくれて、安心して参加できました

『子どもが葛藤する機会を奪っている』という言葉が印象に残りました。

実体験をまじえたお話しがとても面白かったです。遊びの中から学ぶこと、こころの芽生えの話が、印象に残りました

講師は、プレーパークで活動する
地域の保護者とプレーワーカー。



一緒に
考えましょ！

お問い合わせ・お申し込み

(特非) プレーパークせたがや事務局

TEL・FAX : 03-3414-4175

mail : otoiawase@playpark.jp

文化委員主催 第2回家庭教育学級のご報告

プレーパーク こまつなぎ

～子どもたちの遊ぶ姿に、目を向けてみませんか？～ <<9月9日(土)校庭にて>>

今年度の家庭教育学級は「子どもの視線にたってみよう！」をメインテーマにして3回開催されます。第2回目は、「プレーパーク こまつなぎ」と題して、世田谷プレーパークから遊び場の出張開催及びプレーワーカーとの座談会を行いました。

出席者は、児童が55名(未就学含む)、保護者が43名(うち男性11名)。父親の参加が多かったのは土曜日を実施した効果と言えるでしょう。また学年別に見ると、1～2年(未就学含む)が児童で6割弱、保護者で7割弱となっており、低学年のご家庭に関心が高かったようです。

当日は晴天に恵まれ、水遊び、焚き火・マシュマロ焼き、木工アート、段ボール、編み物等のプレーエリアを用意しました。プレーパーク主催者の方によると、学校でここまでの内容を出張で実現できる例は少ないとのことで、火や水の取り扱いで寛大な許可をいただいた校長先生への謝辞をいただきました。世田谷区社会教育指導員の村田先生には、週末にも関わらず最初から座談会の終わりまで、3時間熱心にお付き合いいただきました。

特に、座談会まで出席いただいた保護者の方々は、世田谷公園でのプレーパーク体験者が圧倒的に多く、「外遊び」に対する意義を既に十分に感じておられる方が多かったようです。アンケートや座談会でのコメントでは、「小さい頃からの体験の重要性」「気軽に行ける距離感」「親が黙って見ている忍耐力」などのキーワードに、皆様頷かれていました。座談会で語られた親と子ども世代の好きな遊びでは、親世代に「ゴム跳び、ドロケイ、かくれんぼ、缶けり」など集団遊びが多く見られた一方、子ども世代で数少ない集団遊びの中で「ドッジボール」が人気を博していました。子どもの視点に立つと、集団の外遊びをする機会として、普段の学校で過ごす時間の重みが如何に大きくなっているかを伺い知れた気がします。「今は外遊びが難しい時代。そんな中でプレーパークのある世田谷公園の近くに住んでいることに有り難さを改めて感じた」との声が多く出ていました。

なお、第3回家庭教育学級は、助産師さんを講師にお迎えし、性教育における親の心構えと言うテーマで12/4(月)に予定しています。詳細は、決まり次第ご連絡させていただきます。

